

第38回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2023年12月6日（水）

全体会・部会②10:00～11:30（予定）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口

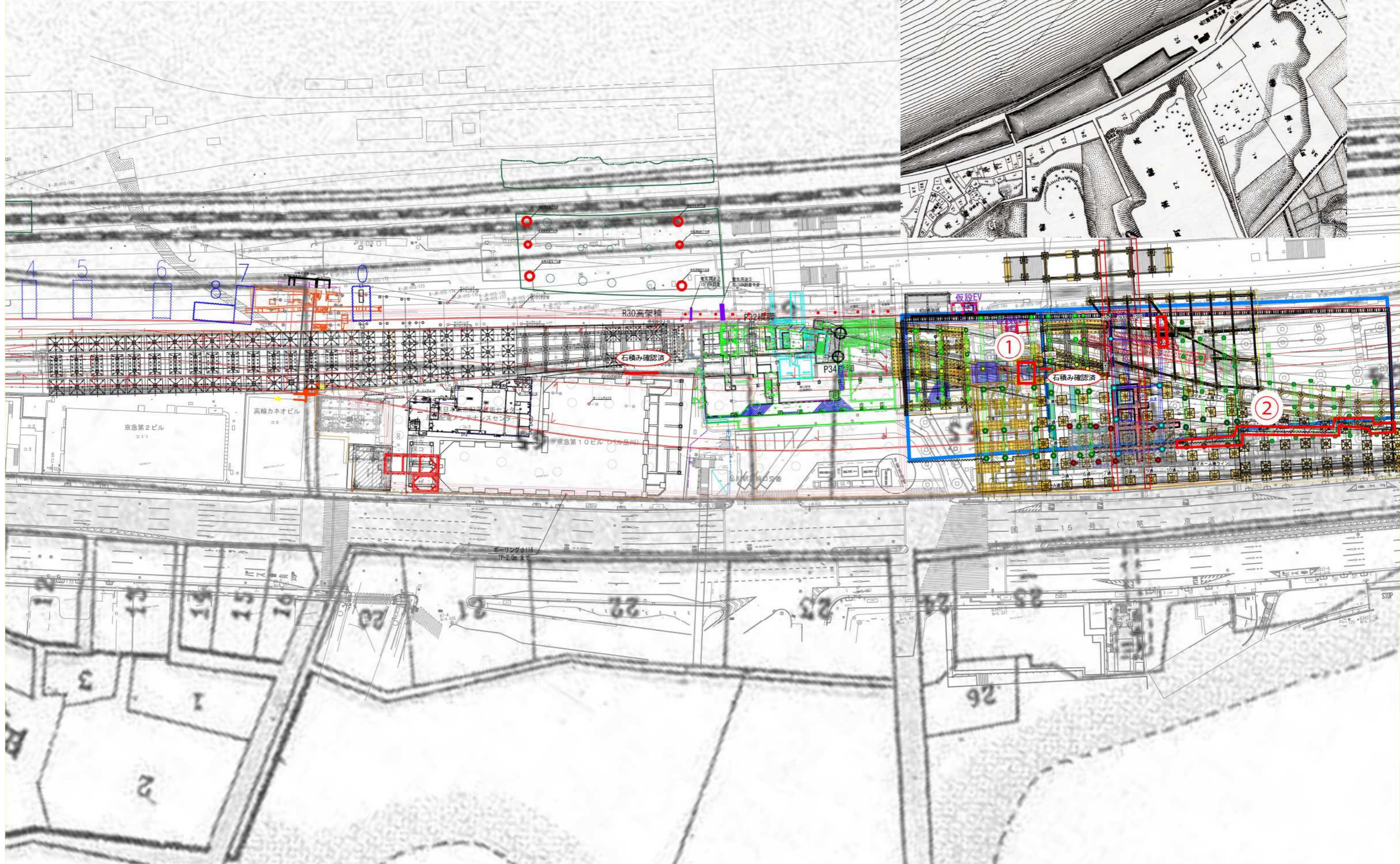
次 第

【部会②】

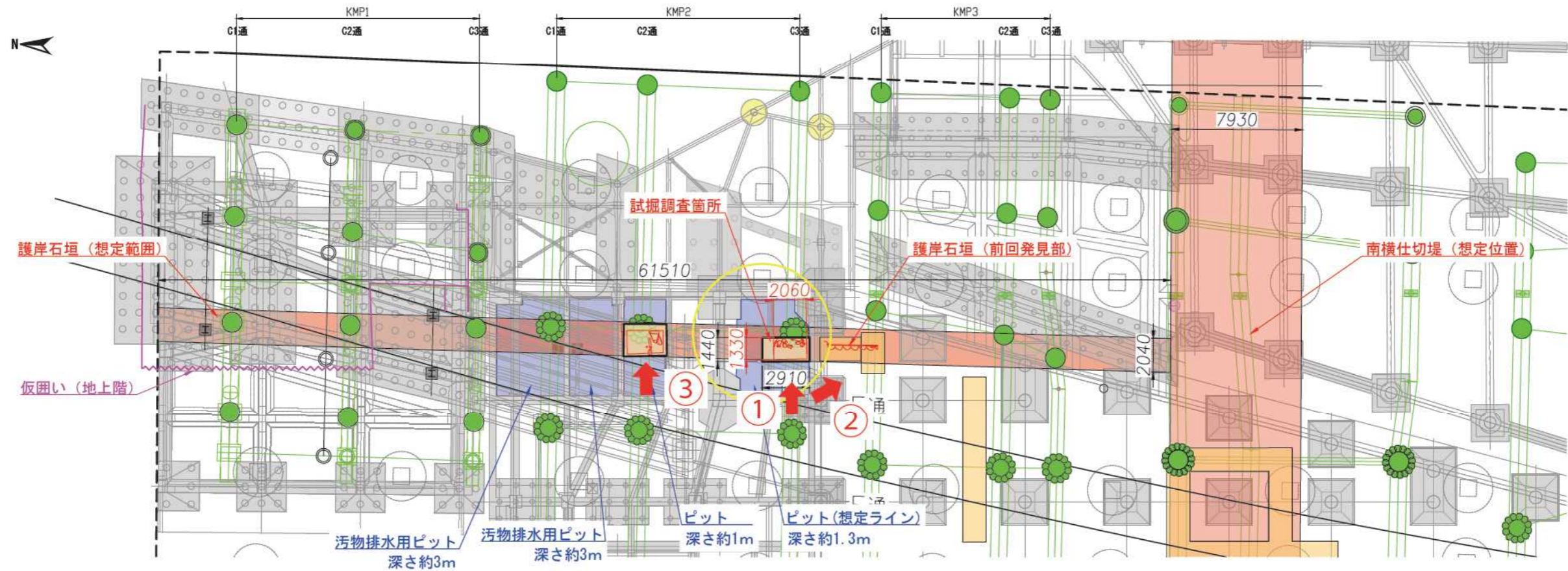
- (1) 開会
- (2) 調査の進捗について 【資料1】
- (3) 京急線連立 遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて 【資料2】
- (4) 京急線連立 遺構への影響低減に向けた仮設計画の検討について 【資料3】
- (5) その他
- (6) 閉会

駅街区地区の試掘調査の進捗について(2023.12.4現在)

明治20年



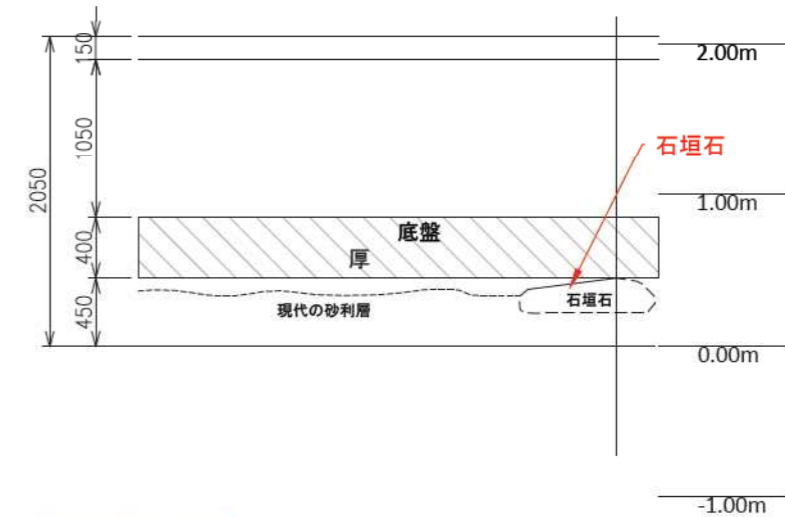
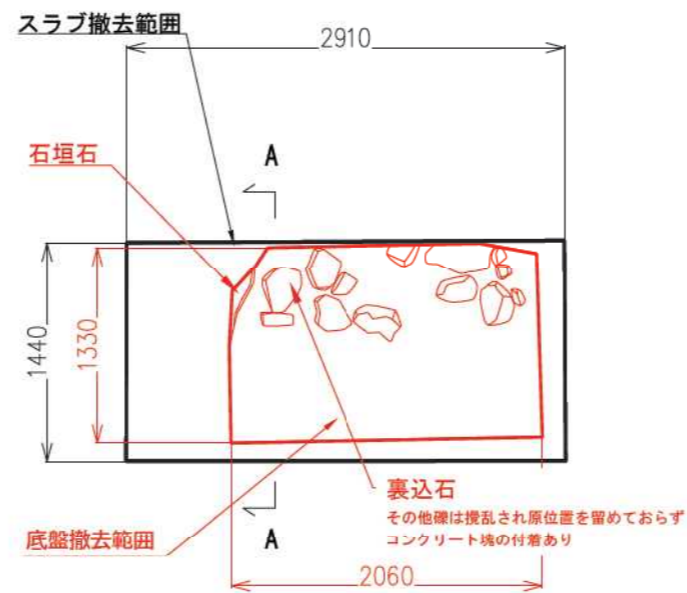
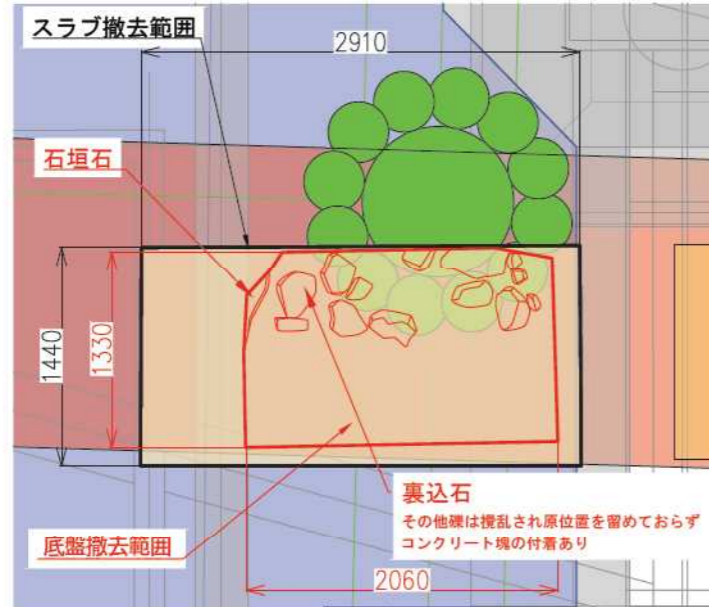
護岸石垣確認試掘調査 (2023.12.4 現在)



平面図 S=1/50

平面図 S=1/50

断面図 (A-A) S=1/50



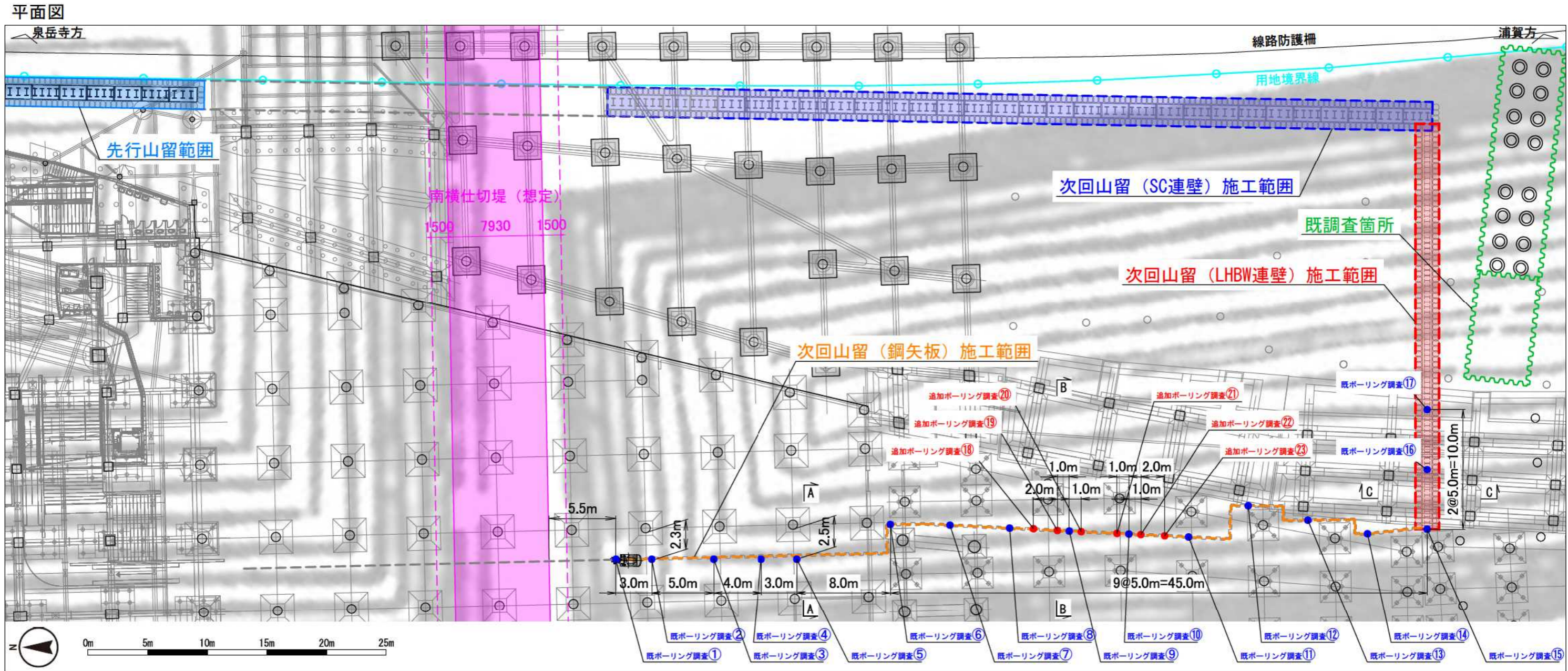
①試掘位置全景



②南側石積み



③北側間知石 (前回報告)



| 地点No | No8 | No18 | No19 | No9 | No20 | No21 | No10 | No22 | No23 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 削孔深度 (T.P.) | -2.003m | -4.000m | -4.000m | -4.001m | -4.000m | -4.000m | -2.000m | -4.000m | -4.000m |
| 作業実施日 | 10/14 | 11/15 | 11/16 | 10/14 | 11/17 | 11/17 | 10/13 | 11/16 | 11/15 |

【調査の目的】

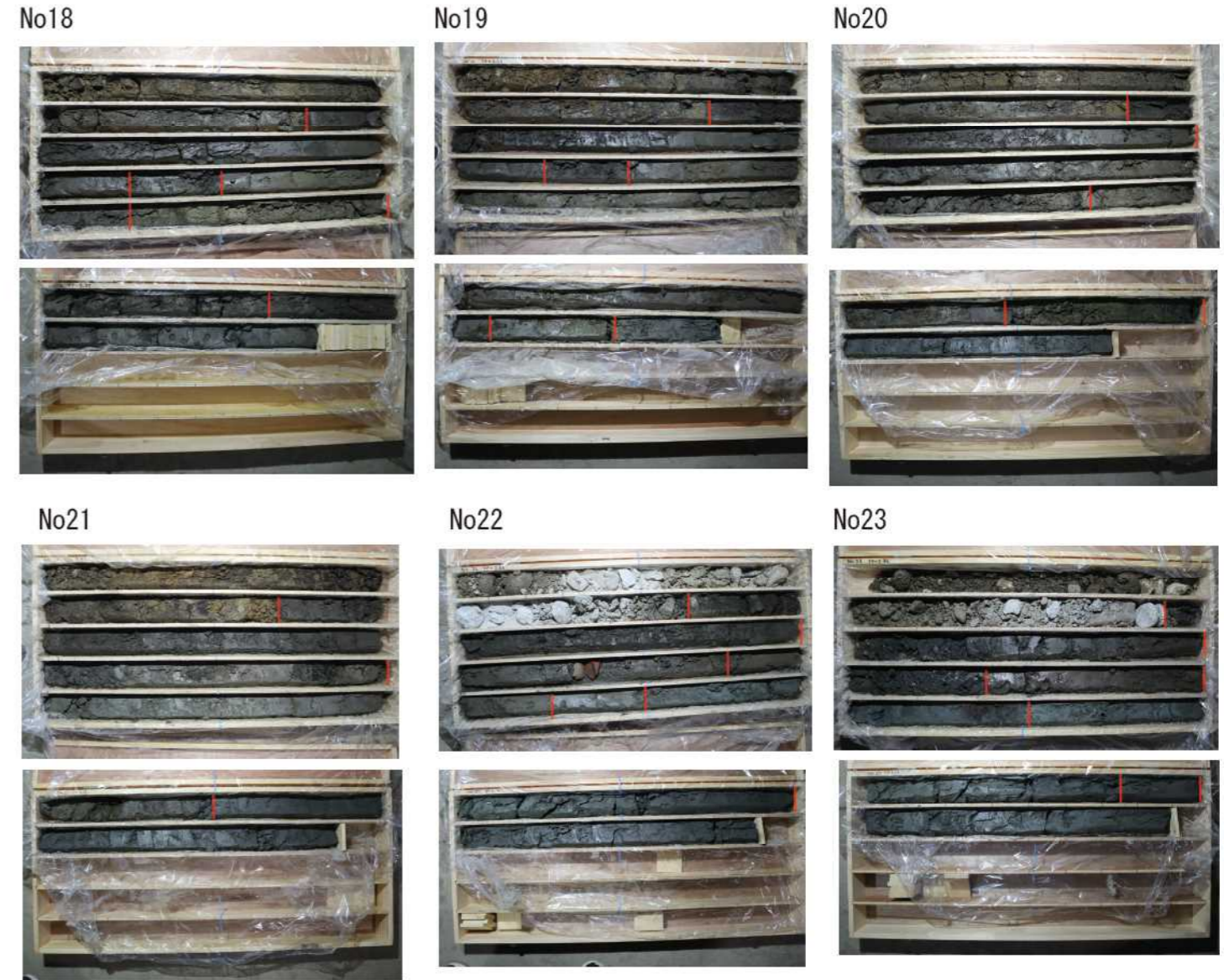
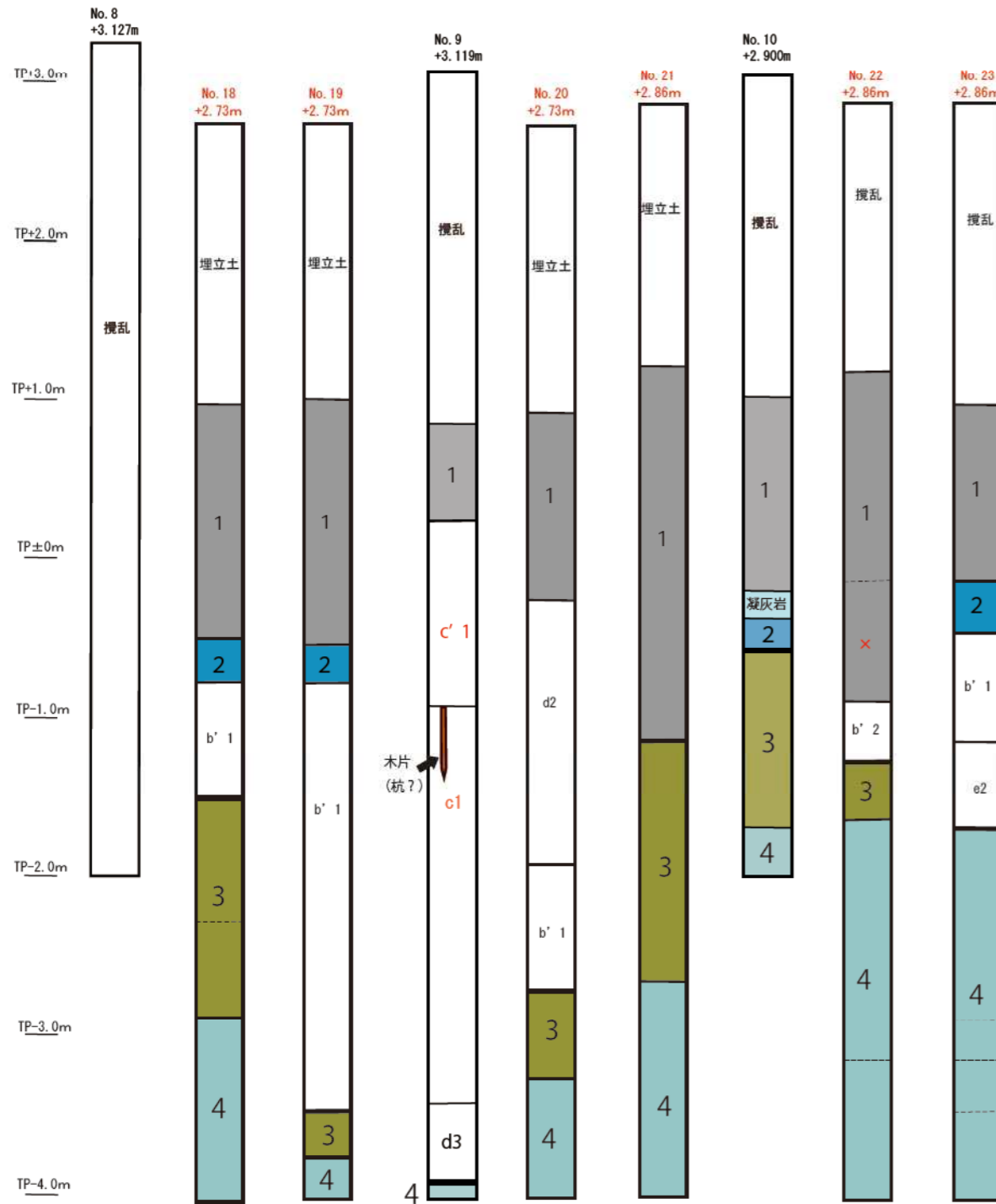
・南棟建設に伴う西側土留め(鋼矢板打設)にかかる遺構の有無等確認(追加調査=赤丸地点)

【調査の方法】

- ・ボーリング調査(Φ116mm)によるコアサンプルの採取と観察
- ・削孔深度はTP-4.0mまで
- ・コアサンプルは港区教育委員会が実見の上、所見を加える

【調査期間】

- ・2023年11月15～17日
- サンプル採取日と削孔深度は上表のとおり(赤字は今回報告分)
- すべてのコアサンプルの観察を11/28に実施



| | No.8 | No.18 | No.19 | No.9 | No.20 | No.21 | No.10 | No.22 | No.23 |
|---------------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|
| 1 黒褐色粘質土 (泥土) | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 検出標高 (TP) | — | +1.005 | +1.01 | +0.919 | +0.94 | +1.205 | +0.9 | +1.18 | +0.965 |
| 2 黒褐色砂礫層 | × | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | ○ |
| 検出標高 (TP) | — | -0.485 | -0.53 | — | — | — | -0.5 | — | -0.14 |
| 3 オリーブ色シルト層 | × | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 検出標高 (TP) | — | -1.54 | -3.45 | — | -2.73 | -1.14 | -0.7 | -1.28 | — |
| 4 硬質粘土層 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 検出標高 (TP) | — | -2.87 | -3.74 | -3.881 | -3.27 | -2.64 | -2.1 | -1.64 | -1.69 |
| 備考 | 攪乱 | | | | | | | | |

【凡例】○=当該の層序を確認 ×=当該層序を未確認(削孔深度が不足している可能性も含む)

※赤字は今回報告地点

【凡例】

①土層註記のうち、基本層序と見られるものは数字の1~4で示す。

- 1: 黒褐色粘質土 (泥土)
- 2: 黒褐色砂礫層 (貝片が混じる)
- 3: オリーブ色シルト層 (自然堆積層か)
- 4: 硬質粘土層 (自然堆積層、高輪築堤の基盤層)

②基本層序以外の層序については、色調と土質をおおまかに分類し、下記ルールにしたがって分類した。

- 色調はアルファベット (小文字) を、土質は数字を割り当て、その組み合わせで表現した。
- (色調) a: オリーブ色系 / b: 茶褐色系 / c: 黒褐色系 / d: 灰色系
- (土質) 1: 粘土 (or 粘性の強い土) / 2: 粘性の弱い土 / 3: ブロック状に入る土
- (ex) a1=オリーブ色粘質土

• 色調のうち、より明度の低いものは「j」を、明度の高いものは「r」を付して区別した。 (ex) b'1 = 暗茶褐色土

③コアサンプル中に遺物を認めた層は、赤字で示した。

④ボーリング地点 No を黒字記載したものは前回報告地点、赤字は今回報告地点である。

【調査所見】

①周辺の基本的な土層堆積状況は、凡例①のとおりと想定する。

前回報告時、「本来は、1層の上に「埋立て土」が乗るか？」という予想は、No18~20の成果により概ね間違いないと考える。

②前回は2層中から遺物を確認していたが、今回の地点では確認されなかった。(前回に比べ、コア中に遺物が少ない点が指摘できる)

③3層 (自然堆積層) の直上に見られる1・2層以外の層については、その由来や性格は不明である。

④No18-No19-No9-No20-No21-No10で、自然堆積層 (3・4層) の検出高に差が見られるが、自然地形によるものか、人為的な造作によるものかは不明。

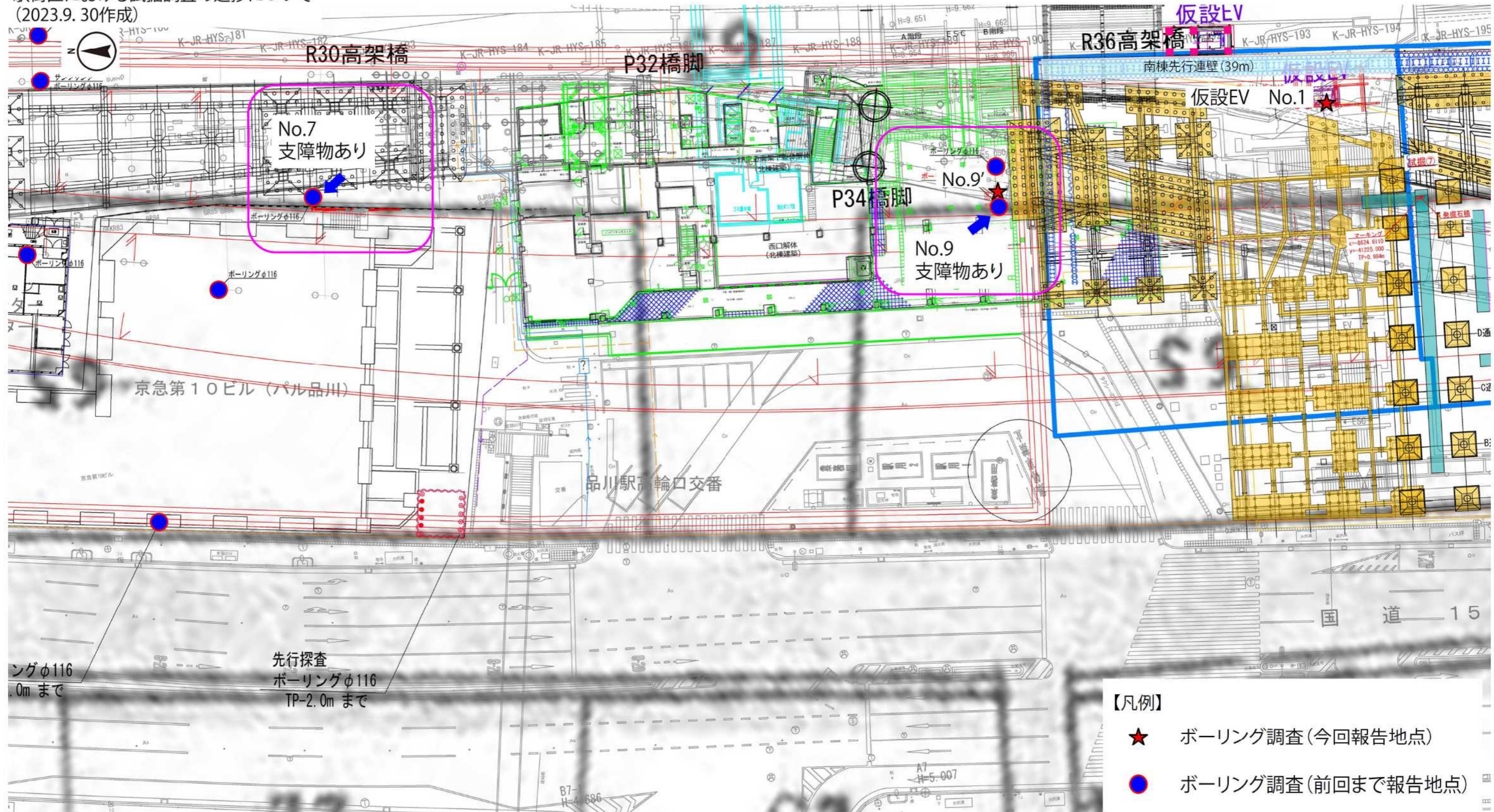
※No.9・10で確認された木片 (杭?)・凝灰岩の連続性 (=遺構構成材であるか否か) を判断するため、追加ボーリング (6本) を実施したが、周辺のコアサンプルから同様の材は確認されなかった。

→連続性はない、と見られる。

1. 試掘（ボーリング調査）の状況

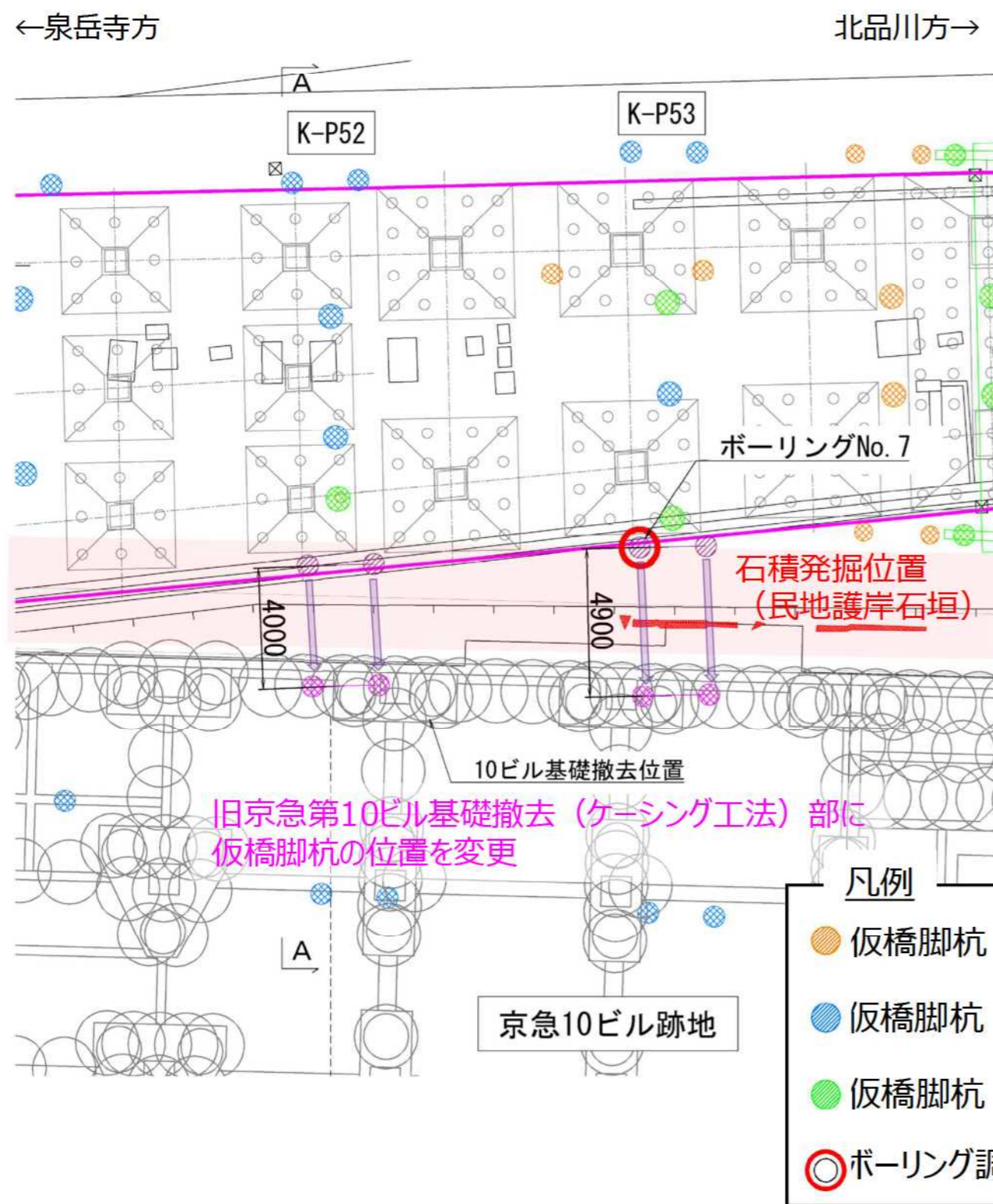
駅街区における試掘調査の進捗について
(2023.9.30作成)

2023.10.4 第36回調査保存委員会 部会② 【資料2-1】港区教育委員会 資料抜粋再掲

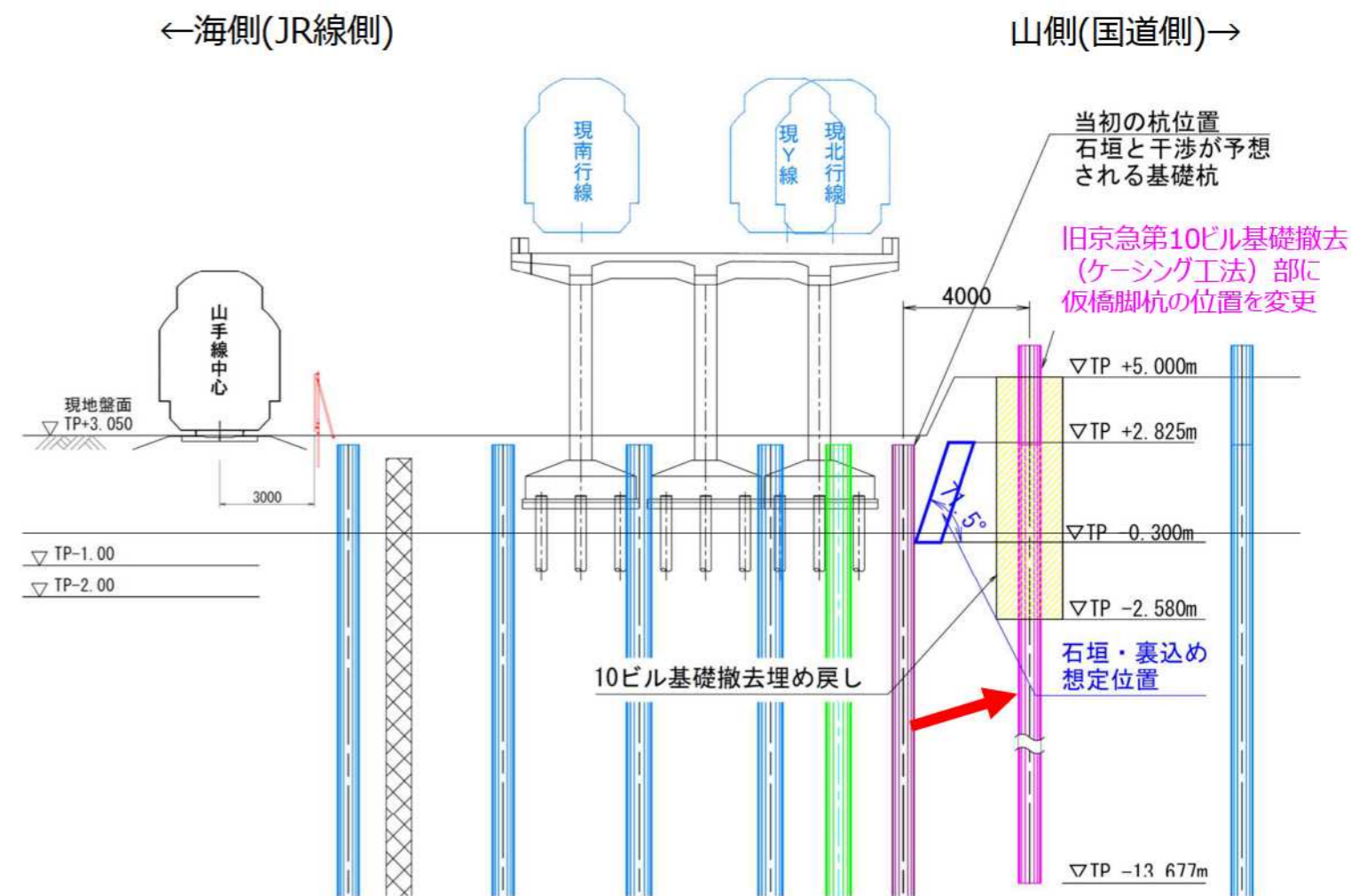


2. 仮設橋脚杭の位置変更の検討 (ボーリングNo. 7 付近)

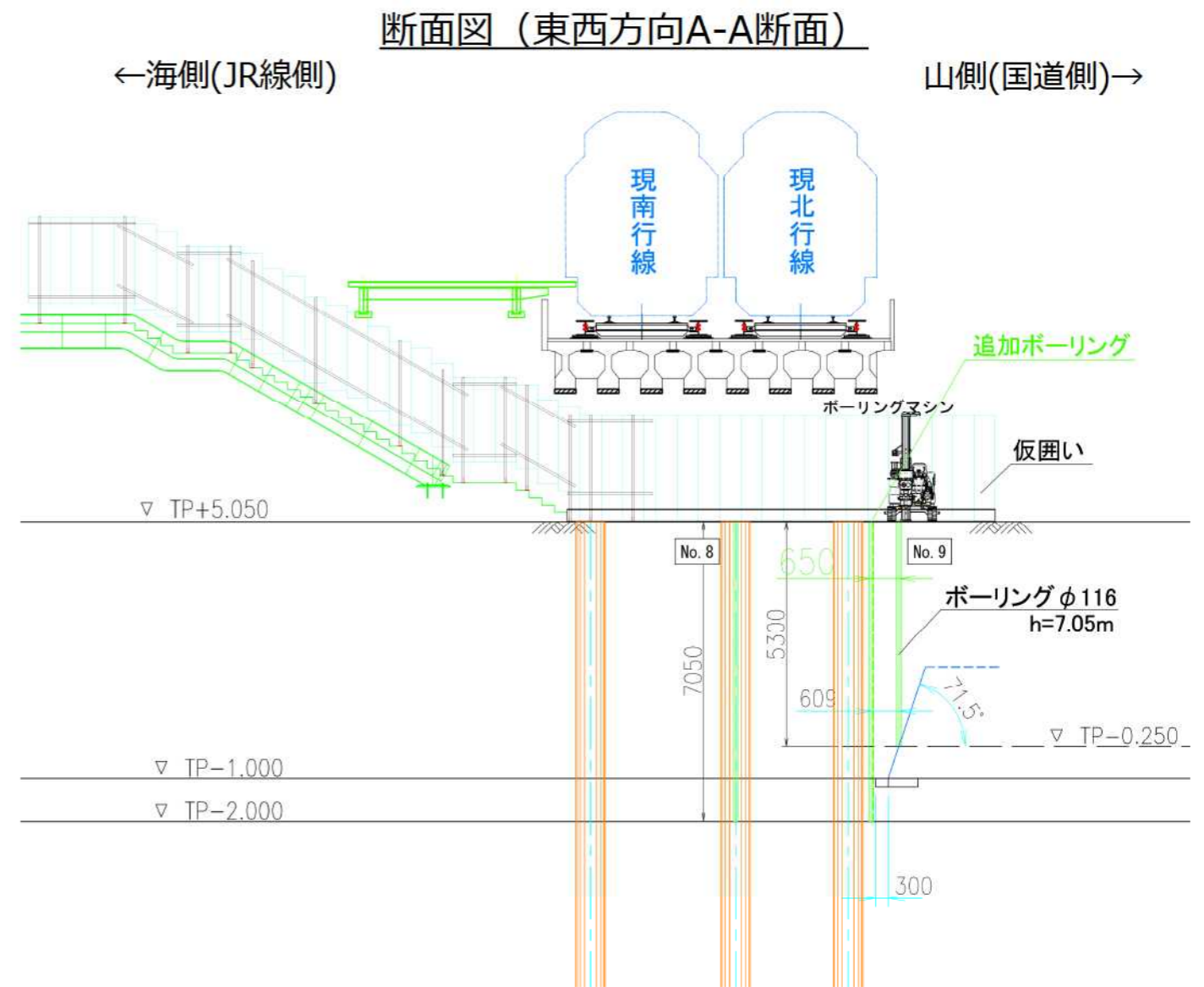
仮橋脚部 (P52-P53) 平面図



断面図 (東西方向A-A断面)

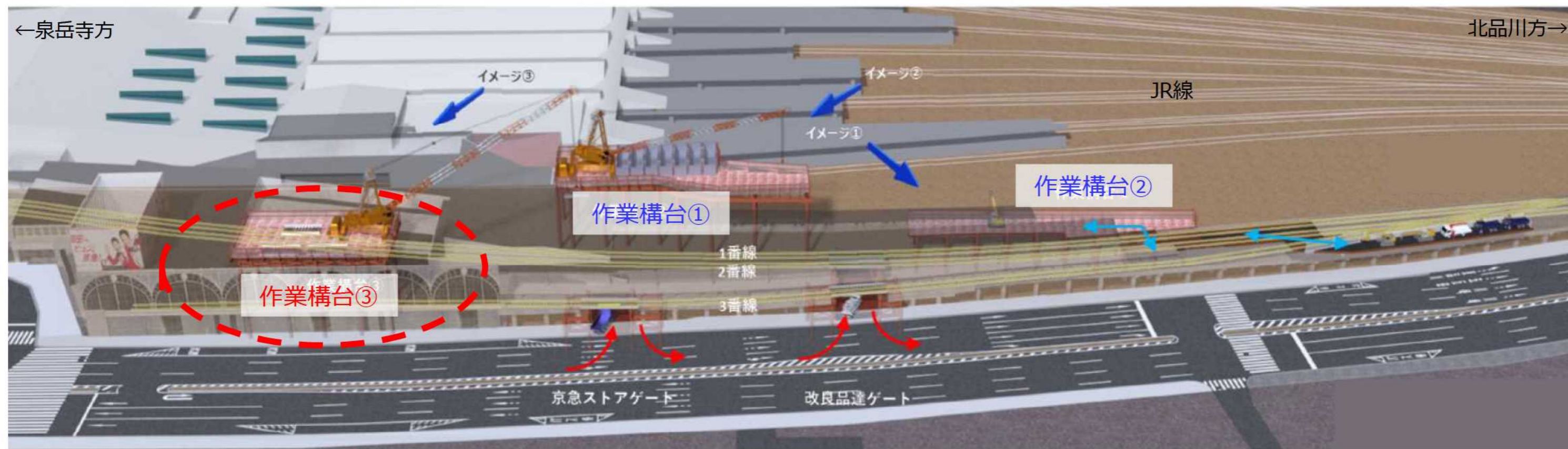


3. 仮設橋脚杭の位置変更の検討 (ボーリングNo.9 付近)

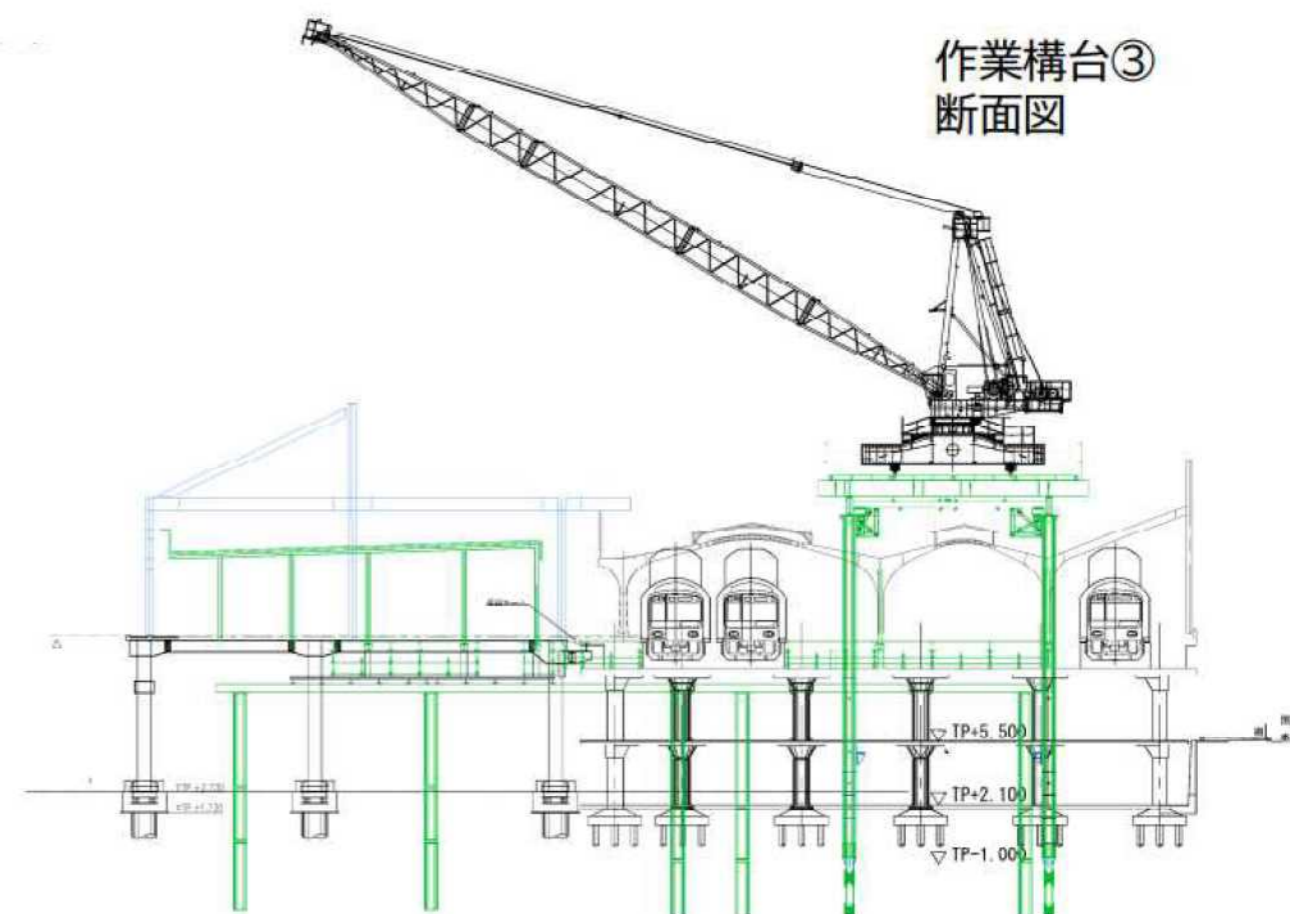
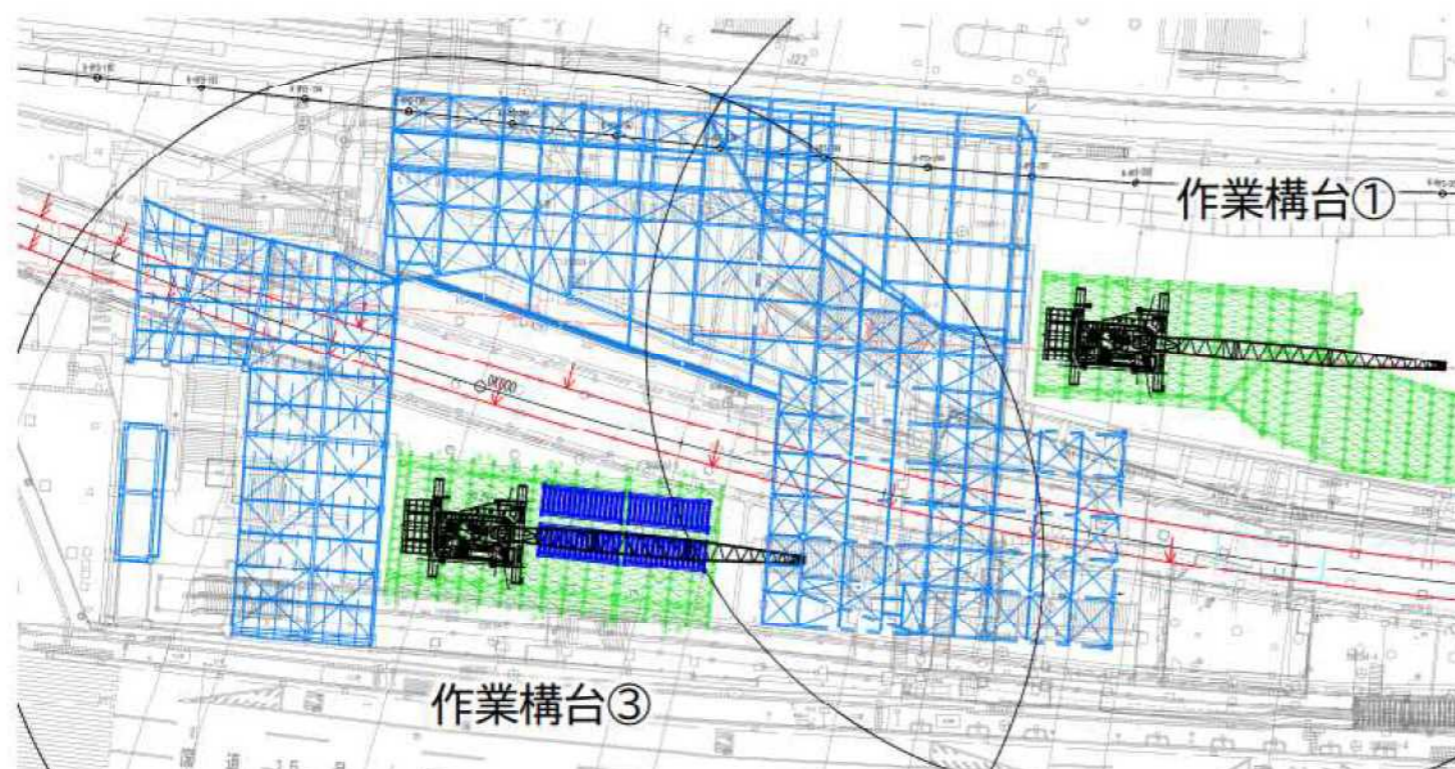


- 凡例
- 仮橋脚杭 (一次・撤去)
 - 仮橋脚杭 (一次二次兼用)
 - 仮橋脚杭 (二次)
 - ボーリング調査箇所

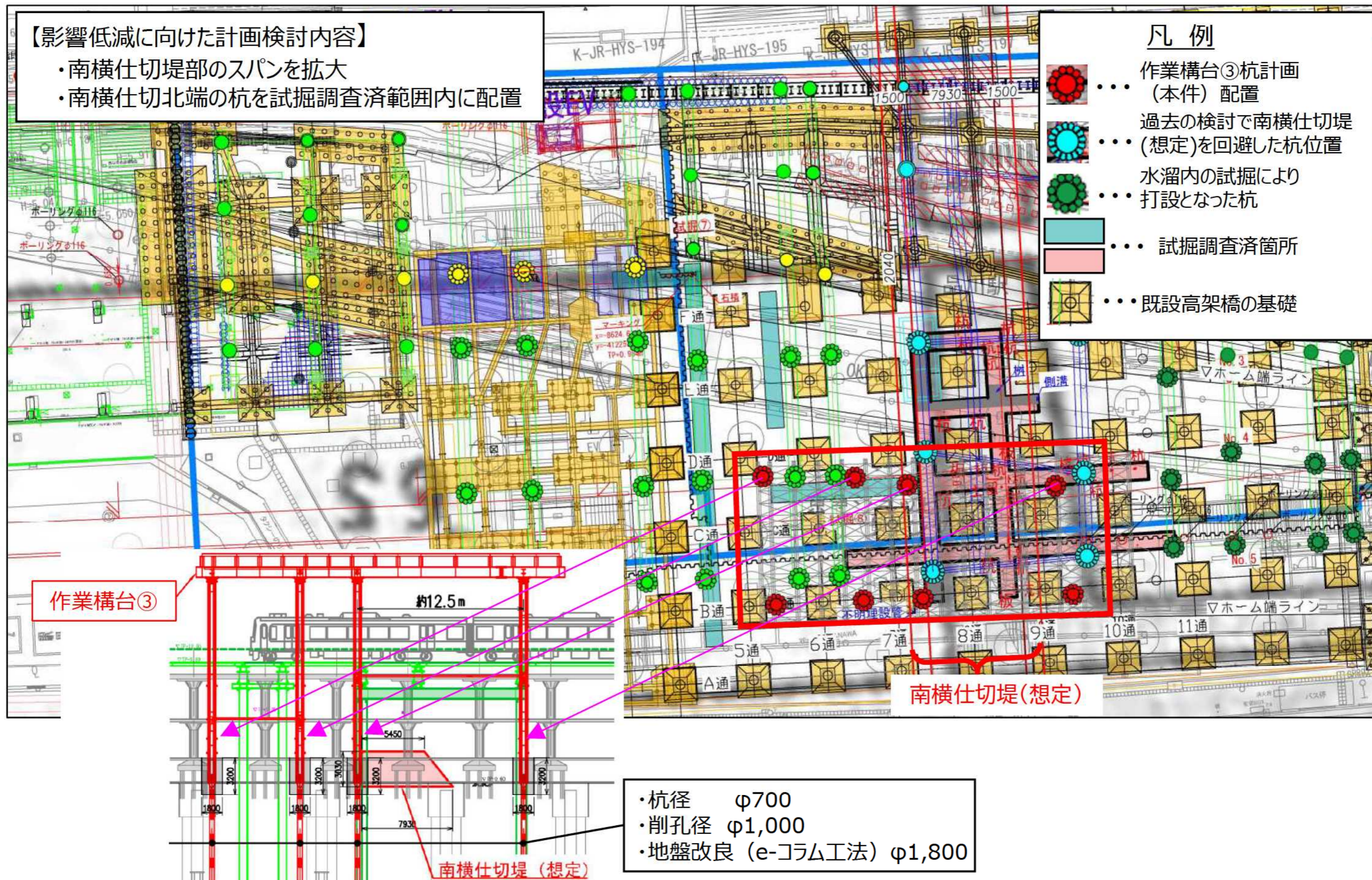
1. 品川駅部作業構台配置イメージ



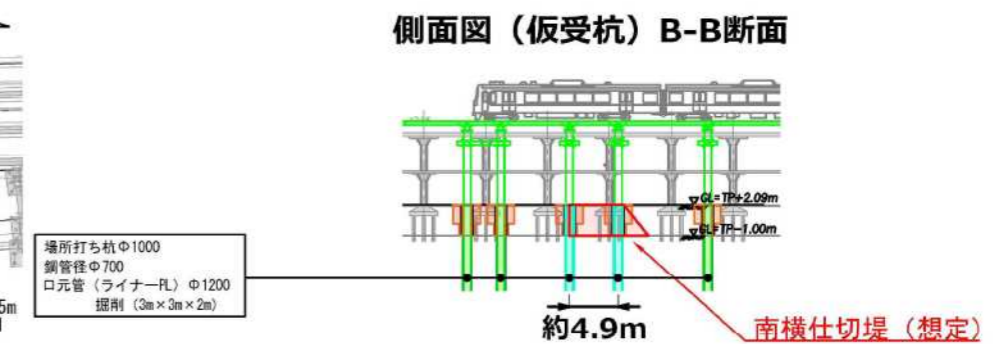
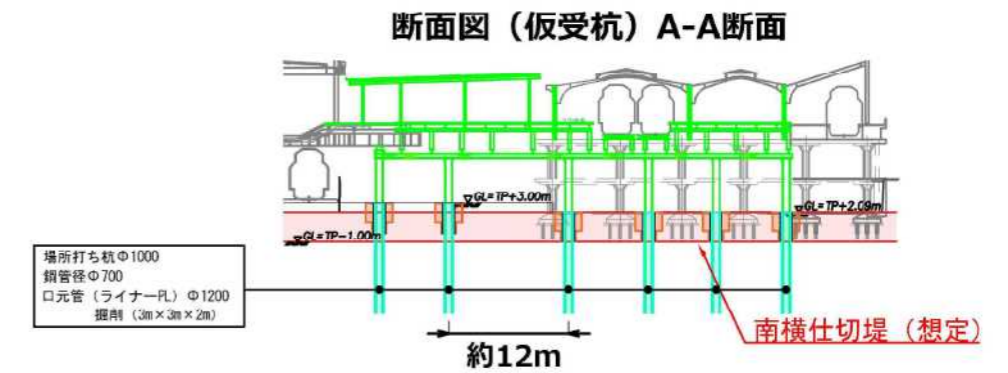
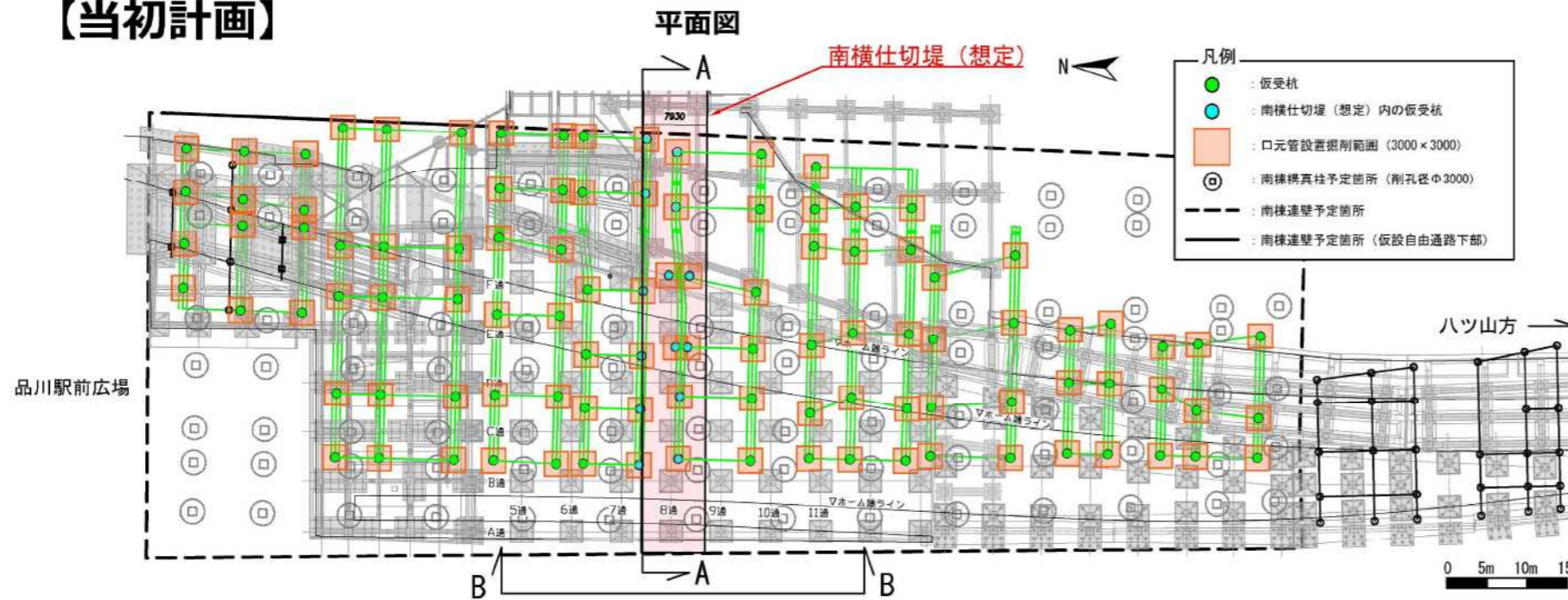
2. 作業構台①・③のクレーン旋回範囲 (品川駅部の上屋撤去・仮設化工事)



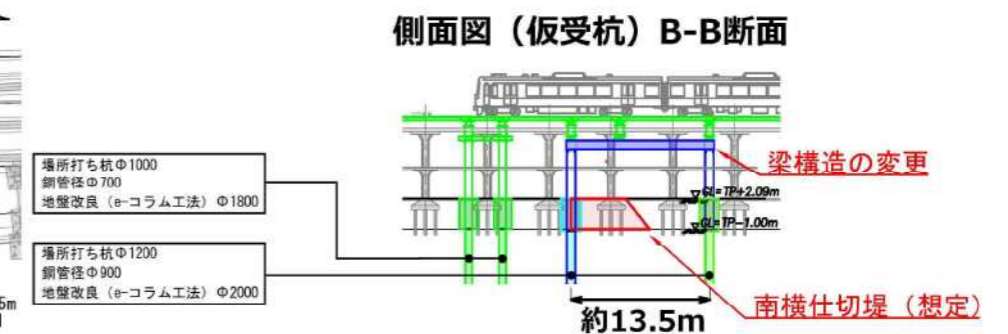
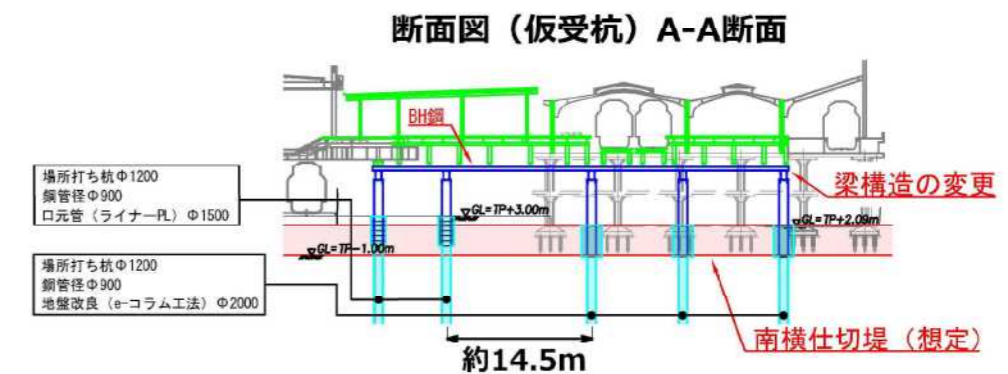
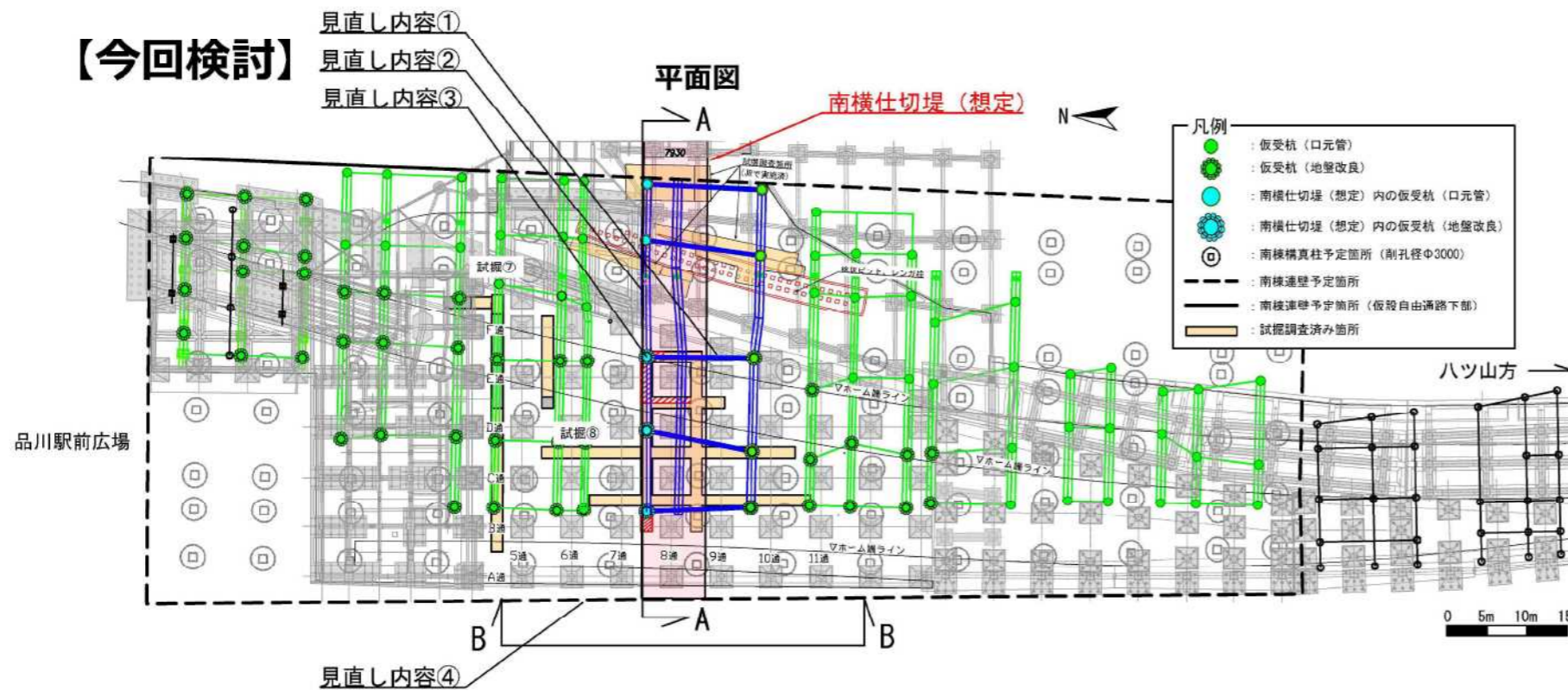
2. 南横仕切堤(想定)を回避した作業構台③の杭配置の検討



【当初計画】



【今回検討】



【見直し内容】

- ① 仮受桁（南北方向）を梁構造を特殊構造とすることで仮受スパンを拡大（約4.9m⇒約13.5m）し、南横仕切堤内中央の杭本数を8本→0本に減
- ② 仮受桁（東西方向）を仮受杭の配置変更および仮受スパンを拡大（約12m⇒約14.5m）することで、南横仕切堤北端の杭本数を6本→5本に減
- ③ 南横仕切堤北端の杭を全て、試掘調査済み範囲内（TP0まで掘削+以深を探針）等に配置変更
- ④ 杭打設に伴う口元管の設置方法を変更することで、掘削面積を約855㎡（約9㎡/箇所）⇒約175㎡（約1.9㎡/箇所）に縮減